2019 年 7 月 5 日

岡山県感染症週報 2019 年 第 26 週（6 月 24 日 ～ 6 月 30 日）

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2019 年　第 26 週（ 6 / 24 ～ 6 / 30 ）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 24 週　5 類感染症　梅毒　5 名（20 代　男　1 名・女　2 名、40 代　男　1 名・女　1 名）

第 25 週　3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　1 名（O115：30 代　男）

5 類感染症　梅毒　5 名（20 代　男　1 名、30 代　男　3 名、40 代　女　1 名）

百日咳　1 名（小学生　女）

第 26 週　2 類感染症　結核　1 名（50 代　女）

3 類感染症　細菌性赤痢　1 名（30 代　女）

腸管出血性大腸菌感染症　2 名（O103：50 代　女　1 名、O 血清群不明：20 代　女　1 名）

5 類感染症　急性脳炎　1 名（80 代　男）

梅毒　1 名（50 代　女）

百日咳　8 名（小学生　男　3 名・女　2 名、20 代　女　1 名、60 代　男　1 名、80 代　男　1 名）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○手足口病は、県全体で 504 名（定点あたり 8.63 → 9.33 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○ヘルパンギーナは、県全体で 135 名（定点あたり 2.43 → 2.50 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 27 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 1 施設でありました（7 月 1 日）。

---

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、2019 年第 26 週に 2 名の報告があり、2019 年第 26 週までの累計報告数は 27 名となりました。今後も発生が続く可能性があることから、岡山県は「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報　発令中！』をご覧ください。
2. 百日咳は、2019 年第 26 週に 8 名の報告があり、2019 年第 26 週までの累計報告数は 137 名となりました（2018 年の同時期：89 名）。年代別では小学生（69 名、50%）、20 歳以上（27 名、20%）、0～6 歳の乳幼児（26 名、19%）が多く報告されています。地域別では、倉敷市（60 名、44%）、岡山市（27 名、20%）、備中地域（26 名、19%）の順で多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児がり患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
3. 風しんは、2019 年第 26 週までに 3 名（第 3 週、第 4 週、第 6 週各 1 名）の報告がありました。なお、2018 年の累計報告数は 29 名でした。全国の発生状況など詳しくは**「今週の注目感染症①」**をご覧ください。
4. 手足口病は、県全体で 504 名（定点あたり 8.63 → 9.33 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較すると、大流行となった 2011 年に次いで 2 番目に多くなっています。地域別では、岡山市（14.21 人）、倉敷市（12.91 人）、備前地域（6.80 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、発生レベル 3 の地域に新たに美作地域が加わり、備北地域以外の全ての地域で発生レベル 3 となりました。県内の発生状況など詳しくは、**「今週の注目感染症②」**をご覧ください。
5. ヘルパンギーナは、県全体で 135 名（定点あたり 2.43 → 2.50 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市（5.79 人）、倉敷市（2.00 人）、備中地域（1.86 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市では発生レベル 3 が継続しています。この感染症は、例年 7

～8 月頃が流行のピークとなります。県内の発生状況に注意するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↗	★	RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	→	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↖	★★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↗	★
手足口病	→	★★★★	伝染性紅斑	↗	★★
突発性発疹	↖	★	ヘルパンギーナ	→	★★★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↑	★
流行性角結膜炎	↗	★	細菌性髄膜炎	→	
無菌性髄膜炎	→		マイコプラズマ肺炎	↓	
クラミジア肺炎	→		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↓	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↖：減少　↓：大幅な減少

大幅：前週比100%以上の増減　　増加･減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

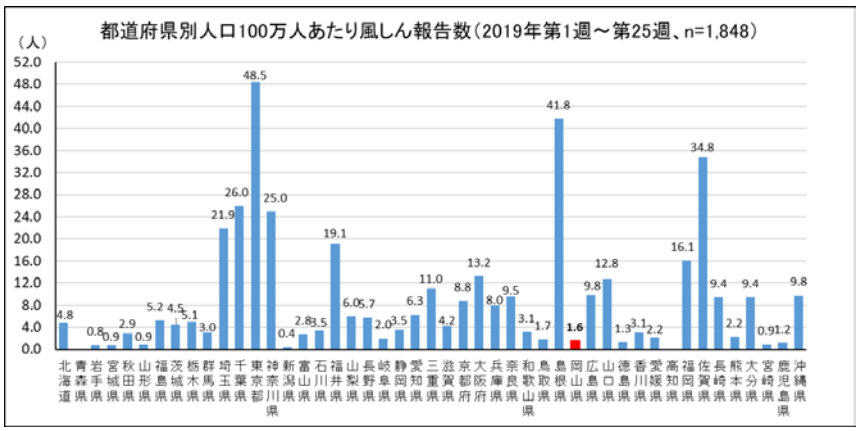
空白：発生なし　★：わずか　★★：少し　★★★：やや多い　★★★★：多い　★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症①

☆風しん

症状等についてはこちらをご覧ください。

⇒『風しんについて』（厚生労働省）

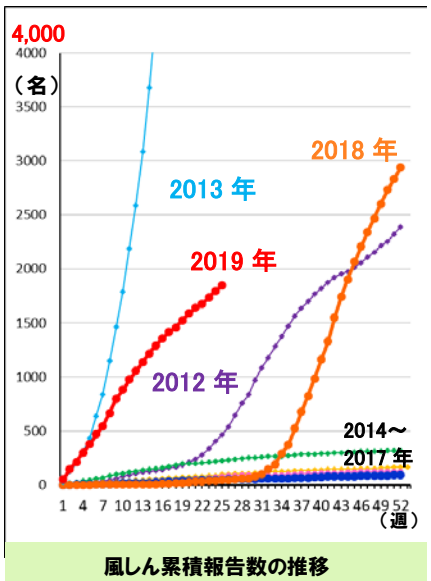


●**全国の発生状況**

風しんは、**2018 年**に全国的に流行しました(2018 年の全国の風しん届出数：**2,917 名**。2015～2017 年の 3 年間では年間 93～163 名)。

2019 年に入ってから、全国では第 1 週から第 25 週の風しん累積患者報告数は **1,848 名**となり、第 24 週の 1,793 名から 55 名増加しました。

2019 年第 1 週から第 25 週までの人口 100 万人あたりの患者報告数は全国で 14.5 人となり、東京都が 48.5 人で最も多く、次いで島根県 41.8 人、佐賀県 34.8 人、千葉県 26.0 人、神奈川県 25.0 人と続いています。**患者の 95 % が成人**で、**男性が女性の 3.9 倍**多く報告されており、特に **30～40 代の男性**に多くなっています（男性患者全体の **60 %** ）。



風しん累積報告数の推移
（全国、2012 年～2019 年第 25 週）

＜中国・四国地方の状況＞

・**2018 年**累積報告数（カッコ内は人口 100 万人あたりの患者報告数）

岡山県：29 名（15.1 人）、広島県：28 名（9.8 人）、山口県：24 名（17.1 人）、愛媛県：7 名（5.1 人）

・**2019 年第 1 週～第 26 週**（速報値）累積報告数

岡山県：3 名（1.6 人）、広島県：28 名（9.8 人）、山口県：18 名（12.8 人）、島根県：29 名（41.8 人）、香川県：3 名（3.1 人）、愛媛県：3 名（2.2 人）

●先天性風しん症候群（CRS）とは

妊娠初期に風しんにり患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に**先天性風しん症候群（CRS）**と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が３大症状です。

全国では 2019 年第 4 週、第 17 週および第 24 週に、各 1 名ずつの先天性風しん症候群の発生報告がありました。

風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、風しんの抗体保有率が低い 30 代～50 代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

風しん抗体検査（無料）を受けましょう！

＜妊娠を希望する女性や同居する家族の方＞

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では風しんの無料抗体検査を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市･倉敷市以外 → 風しんの無料抗体検査が受けられます　（岡山県健康推進課）

岡山市 → 風しんの無料抗体検査

倉敷市 → 風しん抗体検査について　　をご覧ください。

＜1962(昭和 37)年４月２日から 1979(昭和 54)年４月１日までに生まれた男性＞

風しんの抗体保有率が低い 1962 年４月２日から 1979 年４月１日までに生まれた男性に対して、まずは無料で抗体検査を受け、抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる制度が、全国的に始まりました（2019 年から 2021 年度末までの約３年間）。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧いただくか、お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

→ 風しんの追加的対策について（厚生労働省）

風疹急増に関する緊急情報(2019 年)（国立感染症研究所）

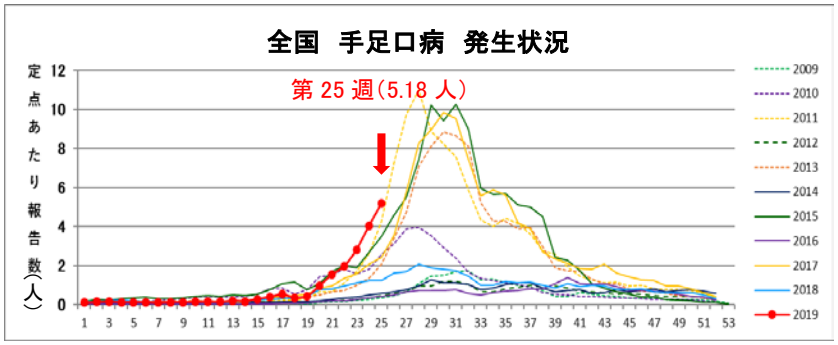
今週の注目感染症②

☆手足口病

●感染経路および症状

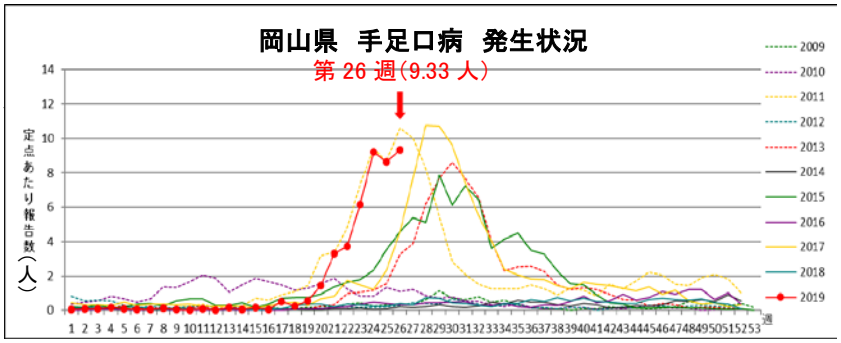
手足口病は、夏季に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染者の咳やくしゃみを受けたり（飛沫感染）、便中に排泄されたウイルスが手指などを介して口に入ること（経口感染）などによって感染します。

3～5 日の潜伏期間の後、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に 2～3mm の水疱性発しんが出現するのが特徴です。発熱は約 1/3 に見られますが、一般に軽度です。3～7 日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎や急性弛緩性麻痺などを起こすことがあります。特に、エンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系の合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

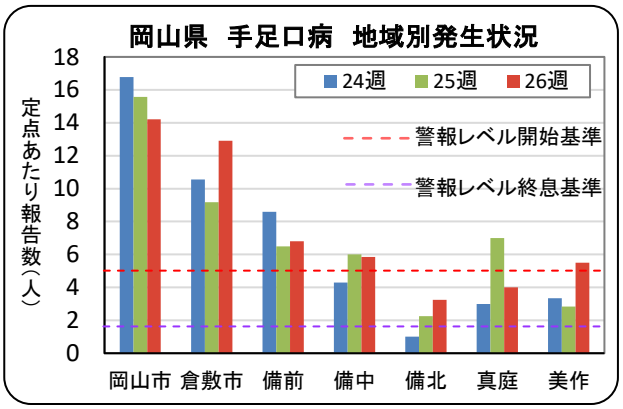


●発生状況

全国的に患者発生の増加が認められており、第 25 週の定点あたり報告数では福岡県（17.33 人）、福井県（15.26 人）、佐賀県（13.17 人）、鳥取県（11.84 人）、高知県（10.07 人）の順に多く、広い範囲で流行しています。

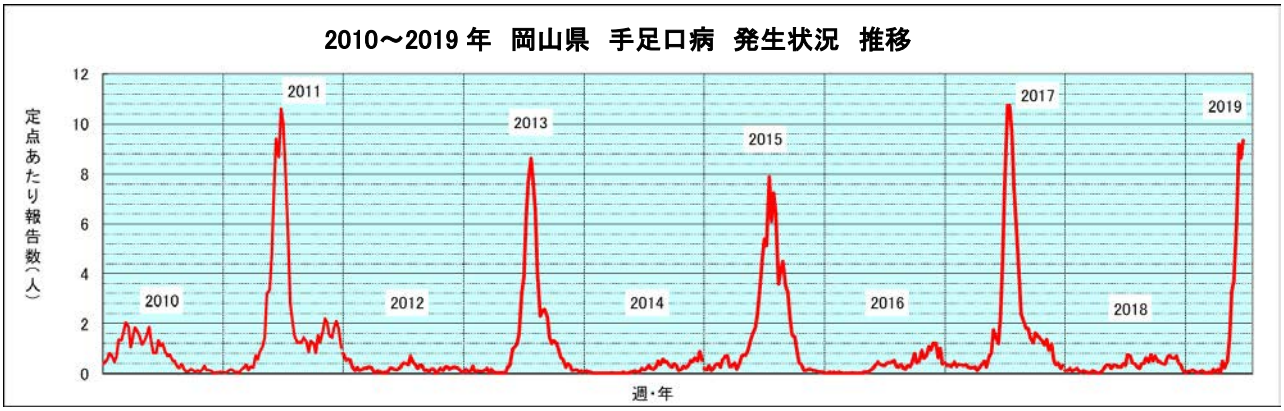


岡山県でも、第 26 週では県全体で 504 名（定点あたり 9.33 人）の報告があり、過去 10 年間の同時期と比較すると、大流行となった 2011 年に次いで、2 番目に多い報告数となっています。年齢別では、0-3 歳で 83 % を占めています。



●治療および予防法

特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくいため、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、高熱が出る、おう吐する、頭を痛がる、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。有効なワクチンはないので、患者との濃厚な接触を避け、せっけんや流水による手洗いを励行し、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。



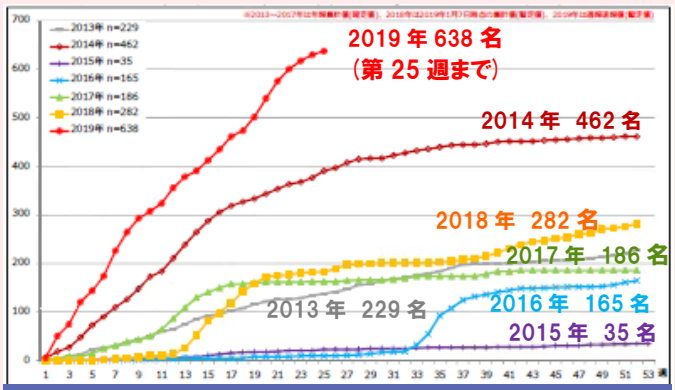
手足口病に関する Q&A（厚生労働省）

注意喚起情報～麻しん感染拡大中!

●全国的に麻しん（はしか）の感染患者が確認されています！

現在、大阪府（144 名）、東京都（101 名）、兵庫県（36 名）、広島県（20 名）で感染者が増加しており（6 月 30 日まで）、全国的に感染が拡大しています。

なお 2019 年第 25 週までで、全国では 638 名の患者が報告され、2018 年 1 年間の報告数の 2 倍を超えています。



全国の麻しん累積報告数推移（2013 年-2019 年第 25 週）

●「麻しん（はしか）」とは

麻しんウイルスによる急性熱性発しん性疾患です。感染経路は、空気・飛沫・接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、1 人の発症者から 12～14 人が感染するとされています（インフルエンザでは 1～2 人）。免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症します。手洗い、マスクのみでは予防はできません。

●症状

感染すると 10～12 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。

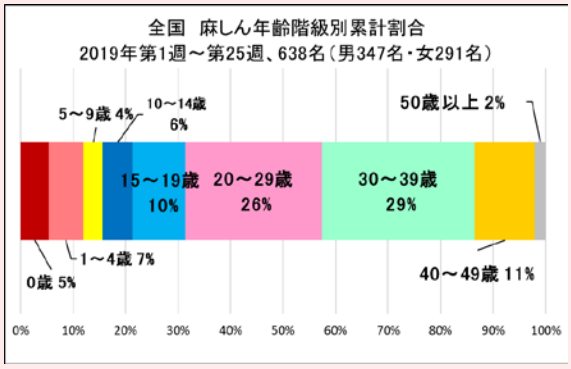
38℃前後の発熱（2～4 日）後、高熱（多くは 39.5℃以上）と発しんが出現します。通常は 7～10 日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻しんの二大死因は肺炎と脳炎です）。

また、妊婦が感染すると、母体が重症化する恐れがあり、流産や早産を引き起こす可能性もあります。なお、麻しんの感染が疑われる場合は、感染拡大防止のため、受診前に医療機関に連絡をし、その指示に従ってください。

●麻しんはワクチンで予防できます！

麻しんは、2 回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるとされています。

1990 年 4 月以前に生まれた方は、未接種か、1 回接種の場合が多く、1 回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。



加えて、麻しん感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんの MR ワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。この年代では定期接種 2 回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MR ワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に 28 歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によっては MR ワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

麻しんについて（厚生労働省）　麻しんとは（国立感染症研究所）

「妊娠している方へ麻しん（はしか）の流行についてのご注意」（日本産婦人科医会）

医療関係者の方へ⇒「医療機関での麻疹対応ガイドライン（第七版）」（国立感染症研究所）

夏休みに海外へ渡航される方へ

©岡山県「ももっち・うらっち」

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
海外に渡航される場合には、渡航先の感染症に対する
予防対策が必要です。

出発前の注意

・感染症に対する正しい知識と予防に関する方法を身に付けましょう。
・渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
・これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

旅行中の注意

・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの生乳など、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
・肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう（蚊のコラム参照）。
・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

帰国した後に

・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

海外へ渡航される方に向けた詳細な感染症情報が厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外へ渡航される皆様へ（厚生労働省）

海外渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所 FORTH）

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

蚊が媒介する感染症（ウイルスなどの病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症）は、世界的に多く発生しており、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。主な感染症には、**デング熱**、**ジカウイルス感染症**、**チクングニア熱**、**日本脳炎**、**マラリア**、**ウエストナイル熱**、**黄熱**などがあります。

➢ **デング熱**

日本では、海外渡航先で感染し、帰国後発症する輸入症例が直近 4 年で毎年 200 例を超えています。デング熱にり患すると、場合によりデング出血熱を発症し、死に至ることもあります。また、2014 年には約 70 年ぶりにデング熱の国内感染例（東京）が報告されました。媒介する蚊が冬を越せないため、ウイルスの国内への定着はないと考えられますが、今後も注意が必要です。

➢ **ジカウイルス感染症**

中南米、アフリカ、東南アジアなどで流行しています。妊娠中のり患により出生児に小頭症や知的障がいなどの先天性症候群をきたすことがあり、特に妊婦および妊娠の可能性のある方は注意が必要です。

【蚊が媒介する感染症の予防策】

日本脳炎および黄熱は予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効ですが、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱およびウエストナイル熱には、ワクチンも予防薬もありません。海外渡航中の感染予防や、国内での流行の未然防止のため、蚊に刺されないこと、蚊の発生を抑えることが重要です。

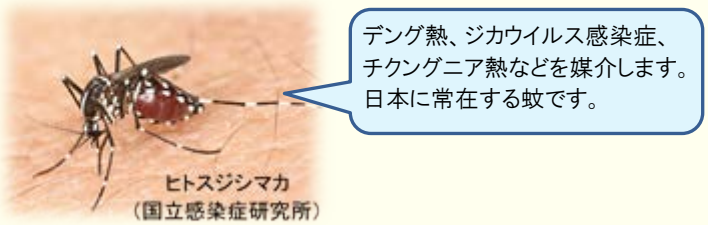
蚊に刺されない

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。
- 素足でのサンダル履きを避ける。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ（蚊は色の濃いものに近づく傾向がある）。
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない。
- 露出する部分にはこまめに虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする。

蚊を発生させない

家の周囲の水たまりの除去・清掃をしましょう！
下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

（厚生労働省より）



蚊媒介感染症（厚生労働省）

「蚊防除対策ガイドライン」を作成しました（岡山県健康推進課）

◆◆◆ 食中毒予防の３原則◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、
食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。
次の３原則に心がけ、予防に努めましょう。

➢ 「清潔」（菌をつけない）

・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➢ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➢ 「加熱」（菌をやっつける）

・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
・特に、食肉は中心部まで十分に火を通し、生食は避けましょう。

食中毒予防の３原則（岡山県生活衛生課）
家庭でできる食中毒予防の６つのポイント（厚生労働省）

保健所別報告患者数　2019年 26週（定点把握）　（ 2019/06/24～2019/06/30 ）　2019年7月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3	0.04	－	－	1	0.06	－	－	1	0.08	－	－	－	－	1	0.10
RSウイルス感染症	1	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	0.17
咽頭結膜熱	31	0.57	12	0.86	1	0.09	3	0.30	9	1.29	2	0.50	－	－	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	1.20	23	1.64	14	1.27	8	0.80	9	1.29	4	1.00	－	－	7	1.17
感染性胃腸炎	286	5.30	93	6.64	57	5.18	50	5.00	17	2.43	32	8.00	7	3.50	30	5.00
水痘	16	0.30	10	0.71	1	0.09	1	0.10	－	－	2	0.50	－	－	2	0.33
手足口病	504	9.33	199	14.21	142	12.91	68	6.80	41	5.86	13	3.25	8	4.00	33	5.50
伝染性紅斑	20	0.37	9	0.64	2	0.18	1	0.10	4	0.57	3	0.75	1	0.50	－	－
突発性発疹	18	0.33	6	0.43	6	0.55	1	0.10	2	0.29	1	0.25	2	1.00	－	－
ヘルパンギーナ	135	2.50	81	5.79	22	2.00	5	0.50	13	1.86	3	0.75	3	1.50	8	1.33
流行性耳下腺炎	8	0.15	1	0.07	4	0.36	2	0.20	－	－	1	0.25	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	8	0.67	4	0.80	2	0.50	－	－	2	2.00					－	－
細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	－	－	－	－	－	－					－	－	－	－	－	－

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数　2019年 26週（発生レベル設定疾患）　（ 2019/06/24～2019/06/30 ）　2019年7月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3	0.04	－	－	1	0.06	－	－	1	0.08	－	－	－	－	1	0.10
咽頭結膜熱	31	0.57	12	0.86	1	0.09	3	0.30	9	1.29	2	0.50	－	－	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	1.20	23	1.64	14	1.27	8	0.80	9	1.29	4	1.00	－	－	7	1.17
感染性胃腸炎	286	5.30	93	6.64	57	5.18	50	5.00	17	2.43	32	8.00	7	3.50	30	5.00
水痘	16	0.30	10	0.71	1	0.09	1	0.10	－	－	2	0.50	－	－	2	0.33
手足口病	504	**9.33**	199	**14.21**	142	**12.91**	68	**6.80**	41	**5.86**	13	3.25	8	**4.00**	33	**5.50**
伝染性紅斑	20	0.37	9	0.64	2	0.18	1	0.10	4	0.57	3	0.75	1	0.50	－	－
ヘルパンギーナ	135	2.50	81	**5.79**	22	2.00	5	0.50	13	1.86	3	0.75	3	1.50	8	1.33
流行性耳下腺炎	8	0.15	1	0.07	4	0.36	2	0.20	－	－	1	0.25	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	8	0.67	4	0.80	2	0.50	－	－	2	2.00					－	－

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　を示しています。

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2019年　第26週　 2019/06/24～2019/06/30 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	31	1	3	7	3	6	9	1	–	–	–	–	1	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	–	–	4	3	7	11	8	5	7	7	1	7	1	4
感染性胃腸炎	286	5	21	58	26	22	18	18	16	11	11	12	25	8	35
水痘	16	–	–	3	–	–	–	5	1	1	3	1	2	–	–
手足口病	504	8	58	190	110	51	29	16	17	7	4	3	3	1	7
伝染性紅斑	20	–	–	3	2	1	2	7	3	–	1	–	1	–	–
突発性発疹	18	–	6	9	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	135	2	14	40	22	17	8	6	5	5	4	4	4	1	3
流行性耳下腺炎	8	–	–	–	–	–	3	–	–	1	–	2	1	1	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
流行性角結膜炎	8	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	3	1	–	1	1	1

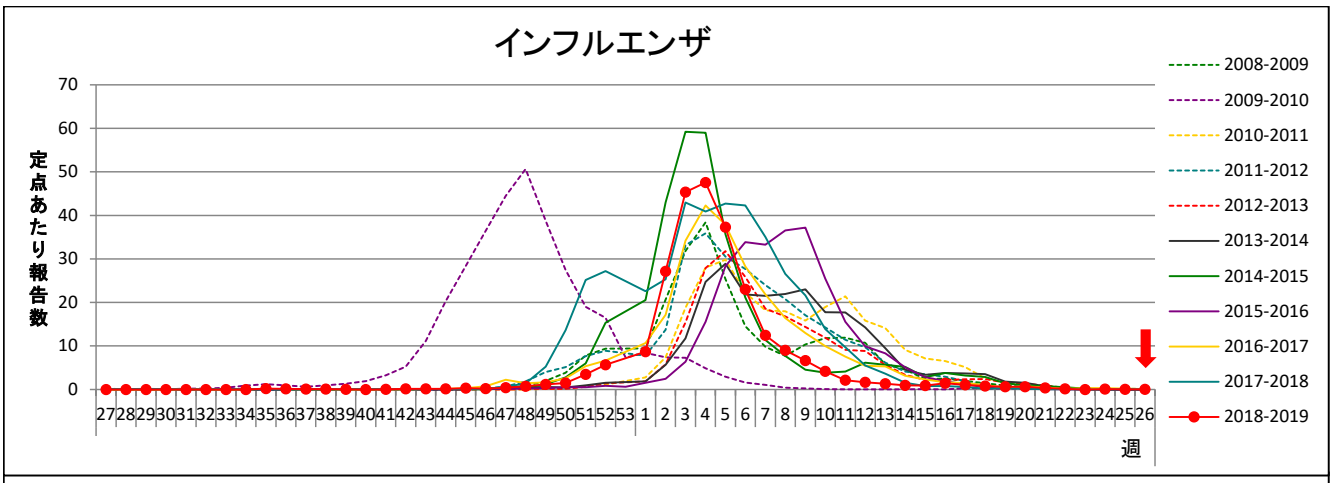
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

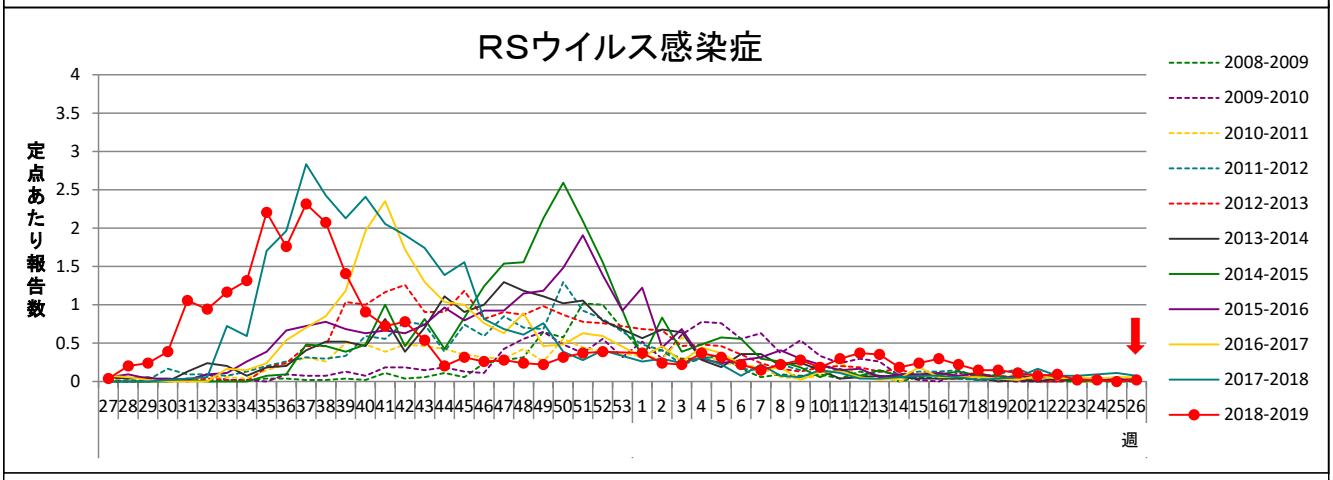
（ – ： 0 ）

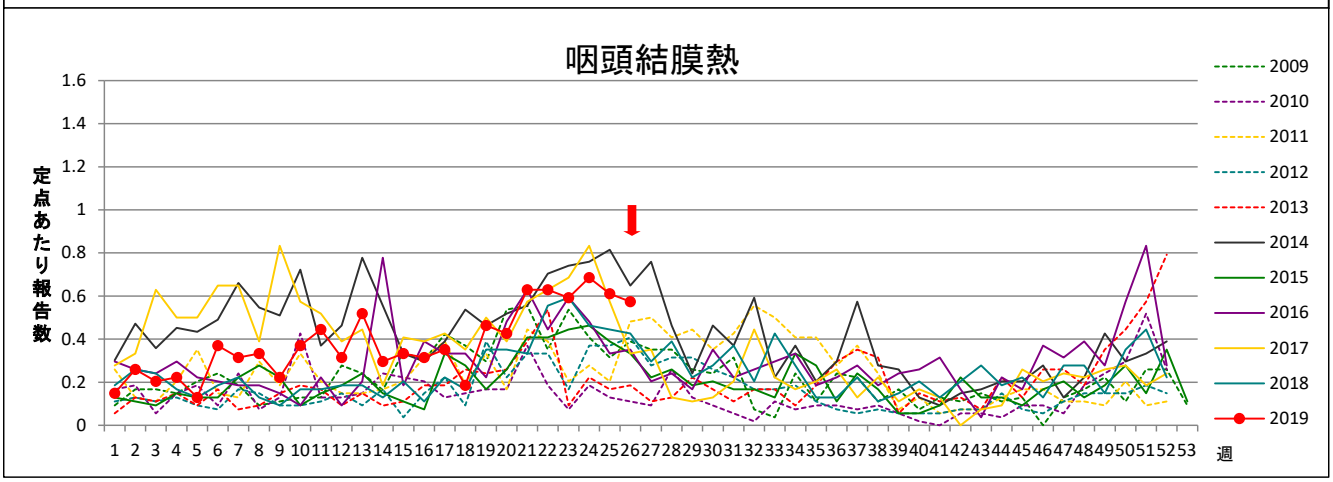
全数把握 感染症患者発生状況

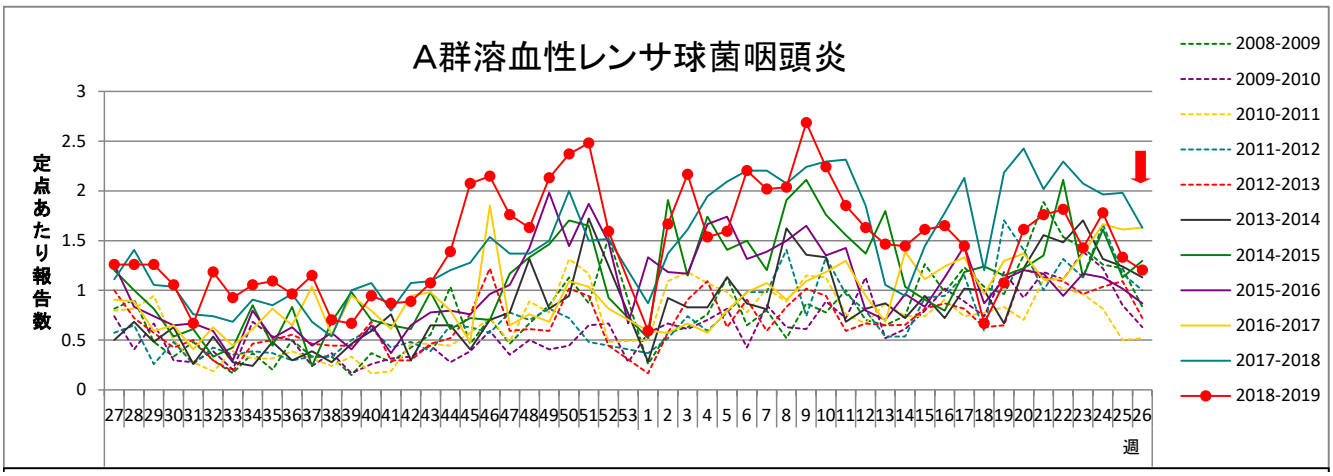
2019 年 26 週

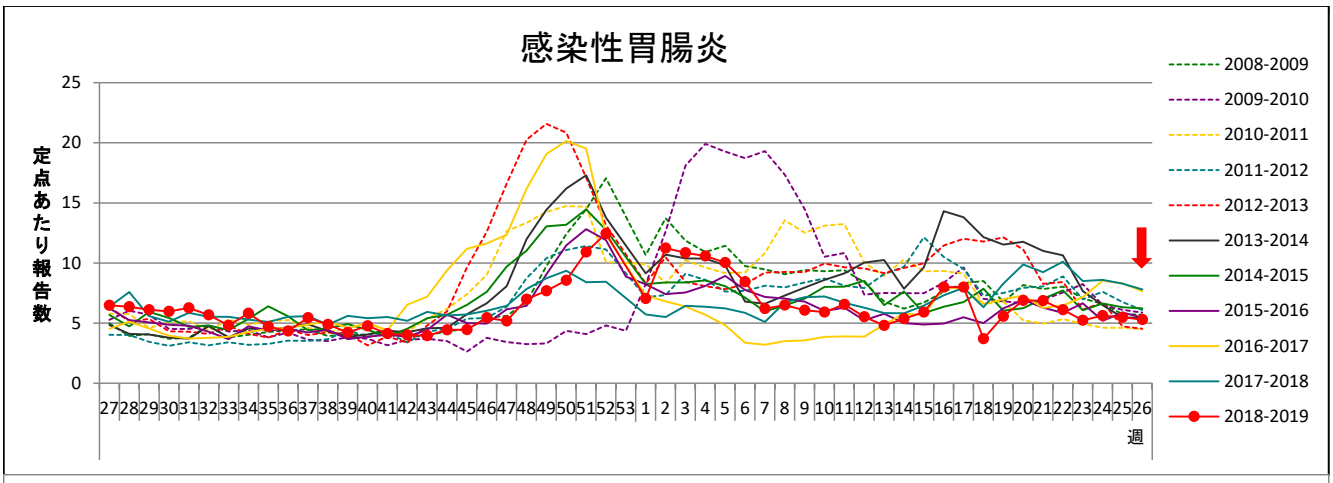
分類	疾病名	2019 今週	2019 累計	2018 昨年	疾病名	2019 今週	2019 累計	2018 昨年	疾病名	2019 今週	2019 累計	2018 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	1	163	337	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	1	2	16	腸管出血性大腸菌感染症	2	27	70
	腸チフス	–	–	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	–	1	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	1	5
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	1	2
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	2	2
	デング熱	–	2	–	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	–	日本紅斑熱	–	1	5
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	1	1	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	22	83
	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	6	15	ウイルス性肝炎	–	6	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	–	15	26
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	–	2	3	急性脳炎	1	9	6	クリプトスポリジウム症	–	–	–
	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	3	14	後天性免疫不全症候群	–	5	18
	ジアルジア症	–	–	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	3	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	–	24	45	水痘（入院例に限る。）	–	4	3	先天性風しん症候群	–	–	–
	梅毒	1	84	160	播種性クリプトコックス症	–	–	2	破傷風	–	2	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	–	–	–	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	2	–	百日咳	8	137	187
	風しん	–	3	29	麻しん	–	–	–	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–

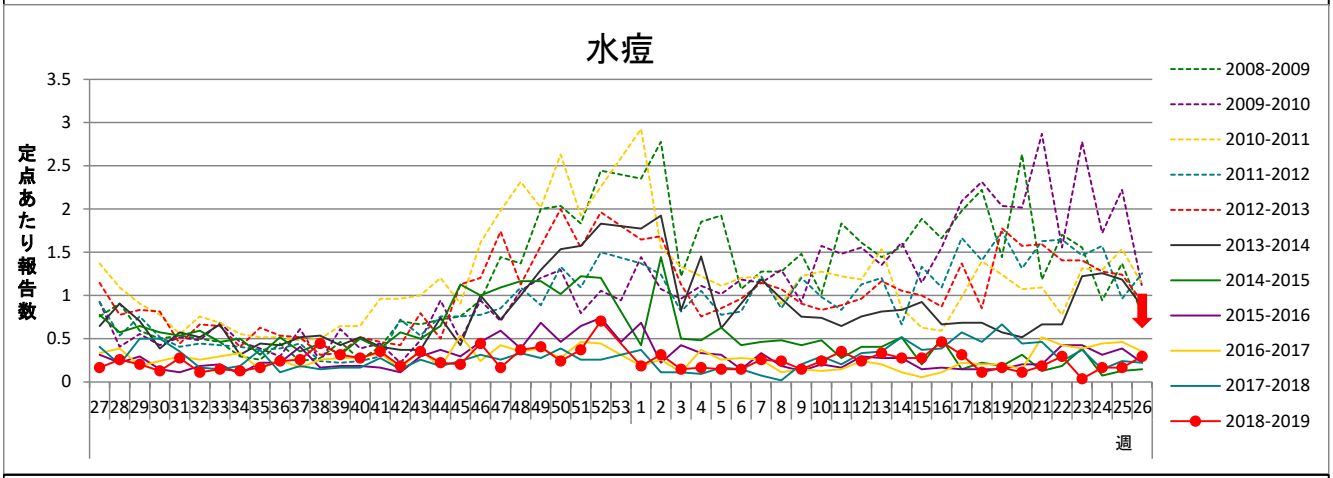

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019

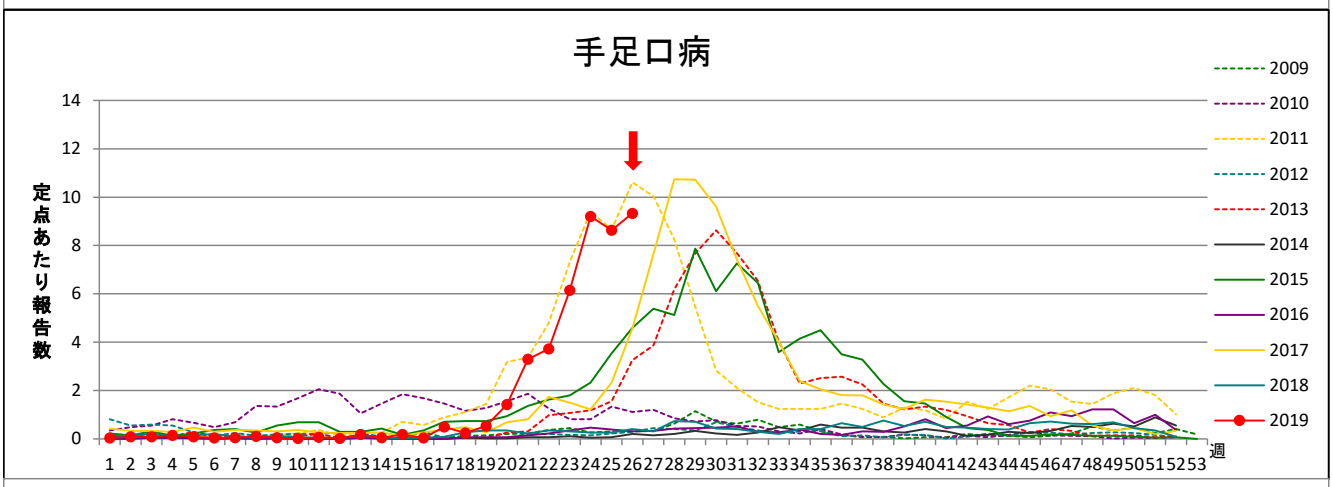

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019

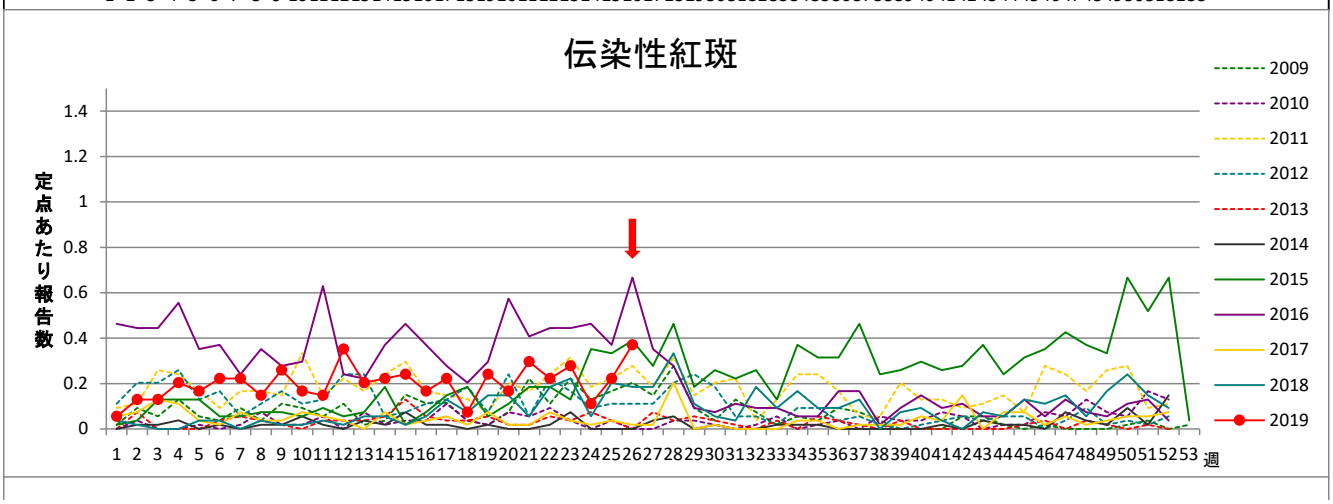

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

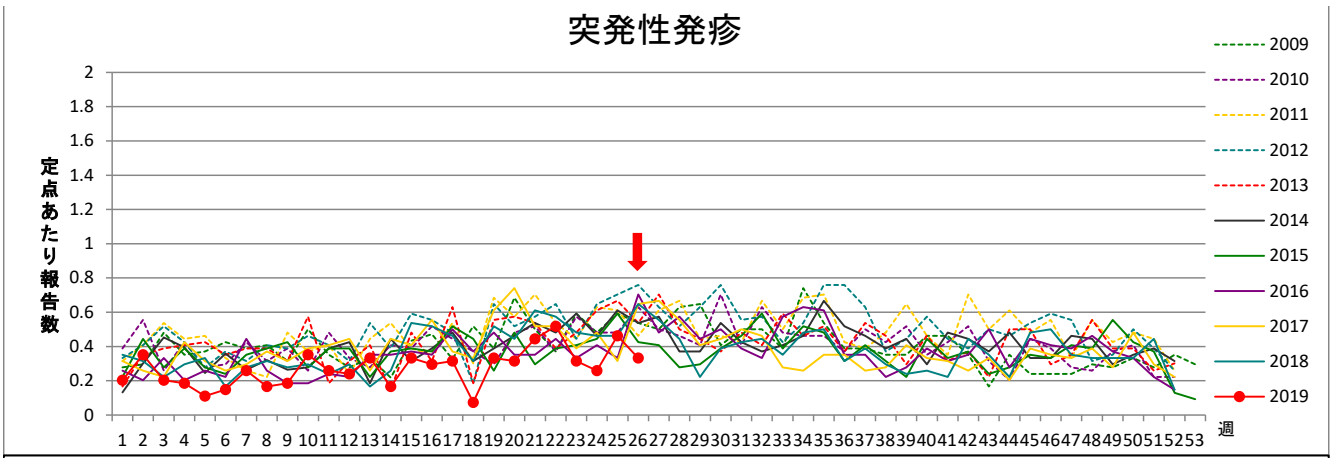

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019

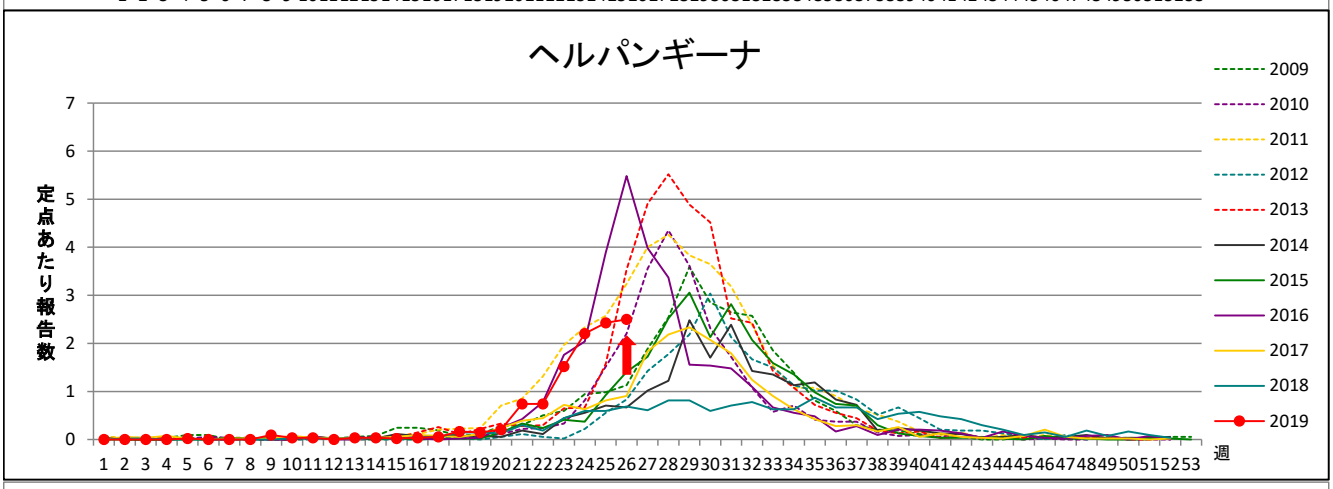

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019

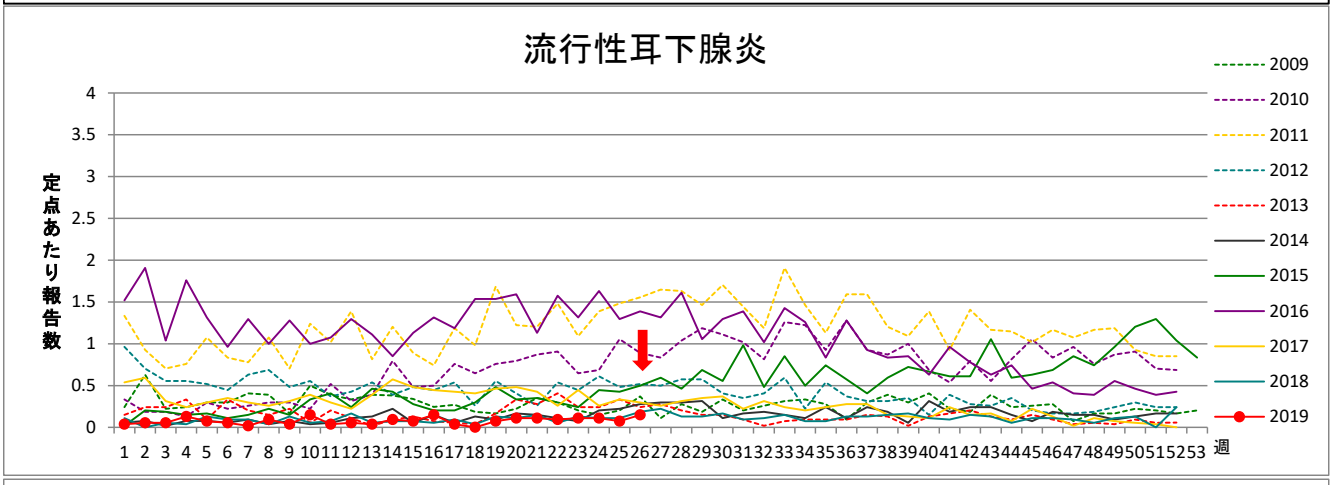

水痘
定点あたり報告数
週
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019

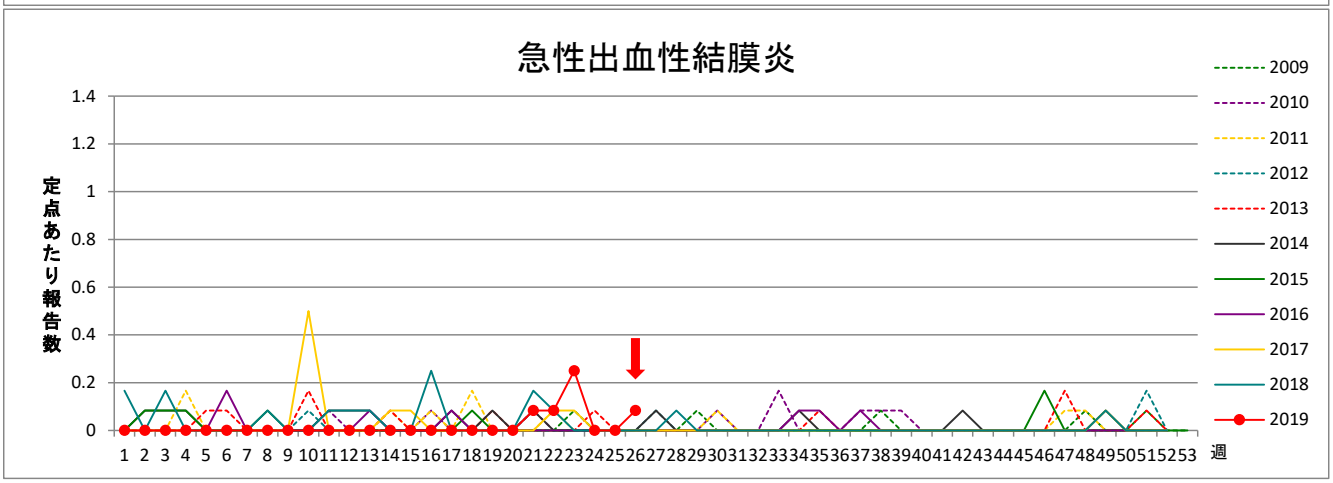

手足口病
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

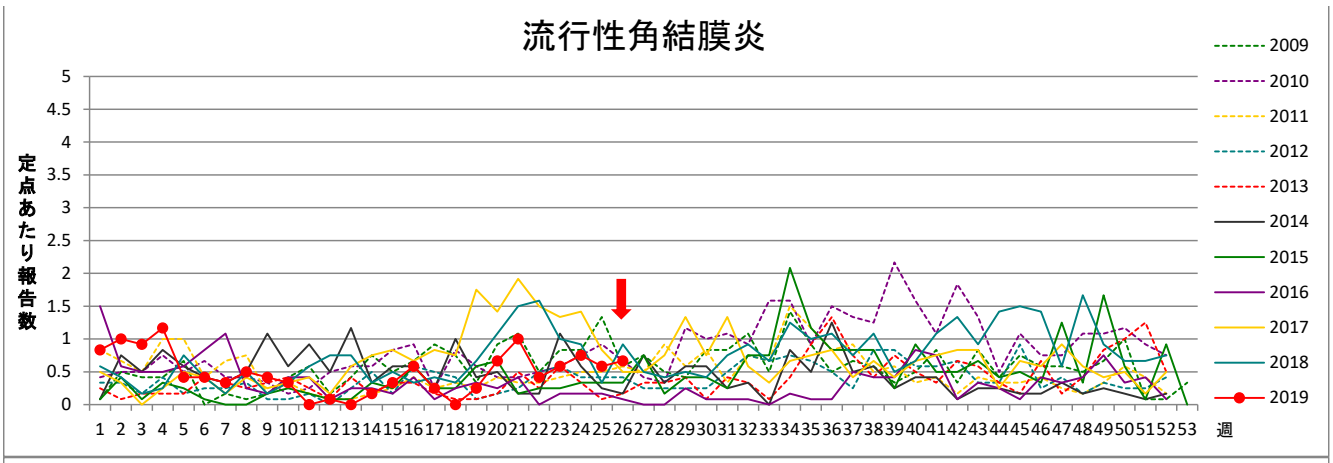

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

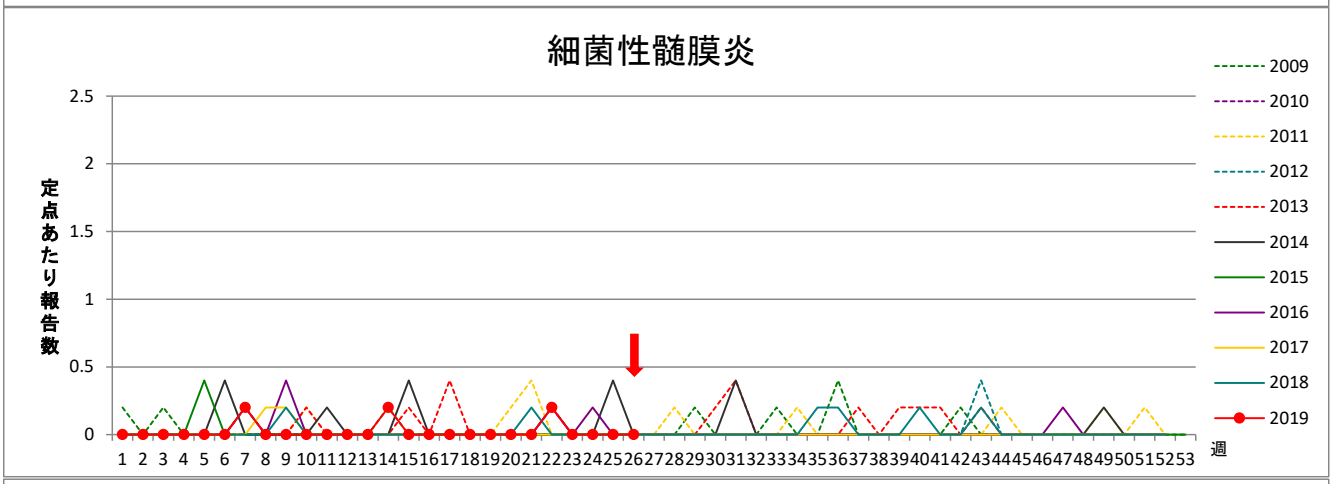

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

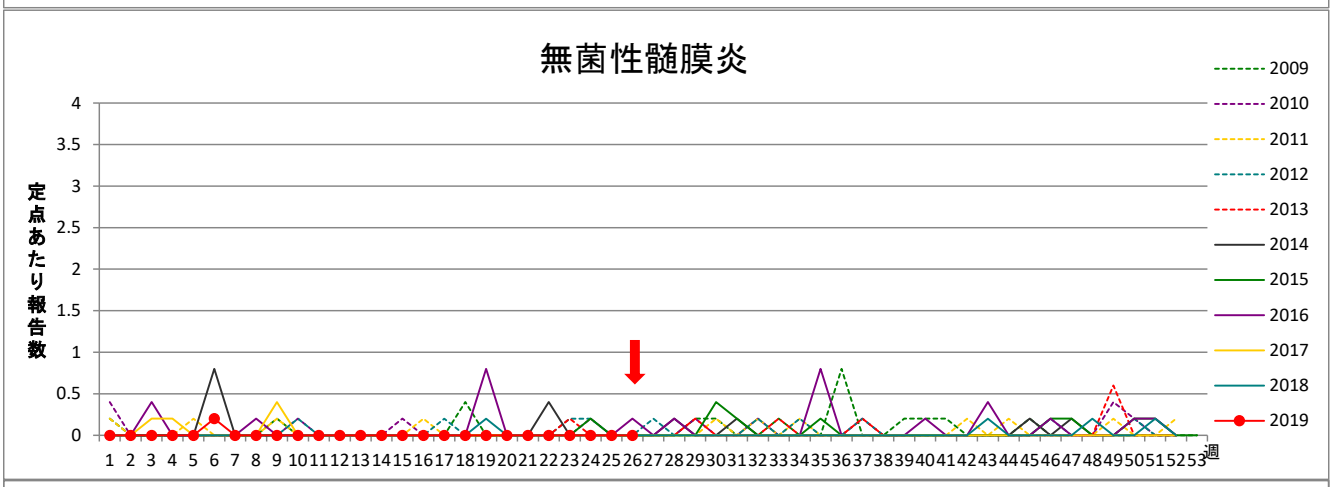

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

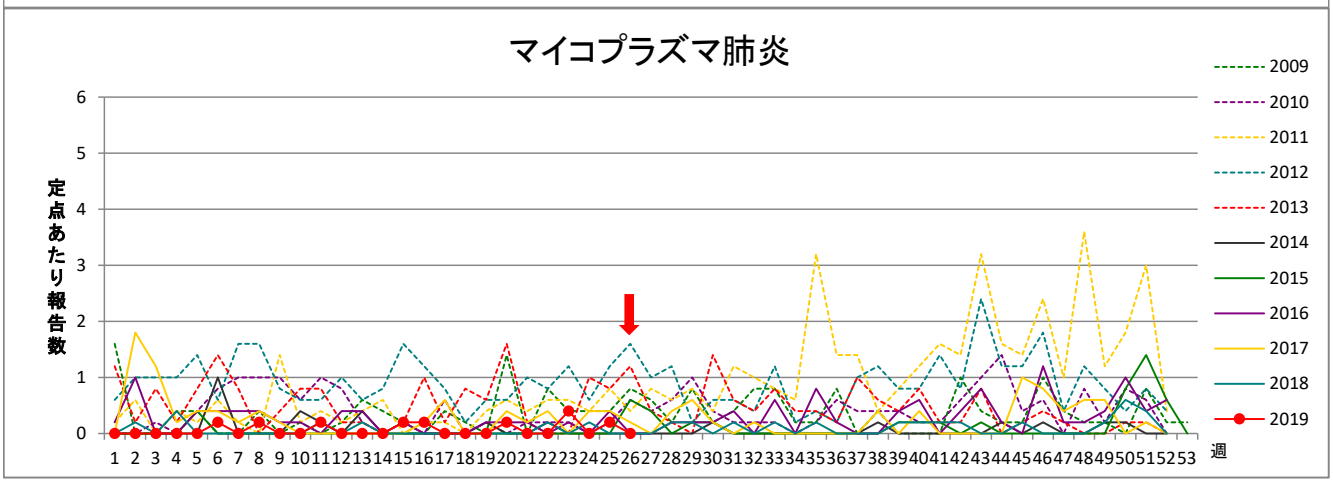

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

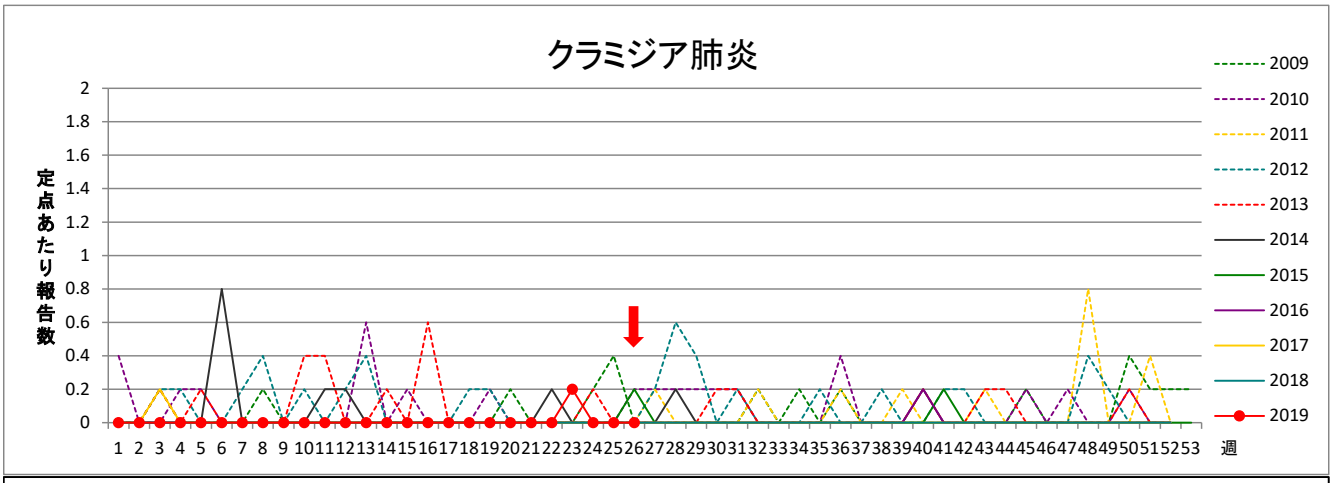

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019

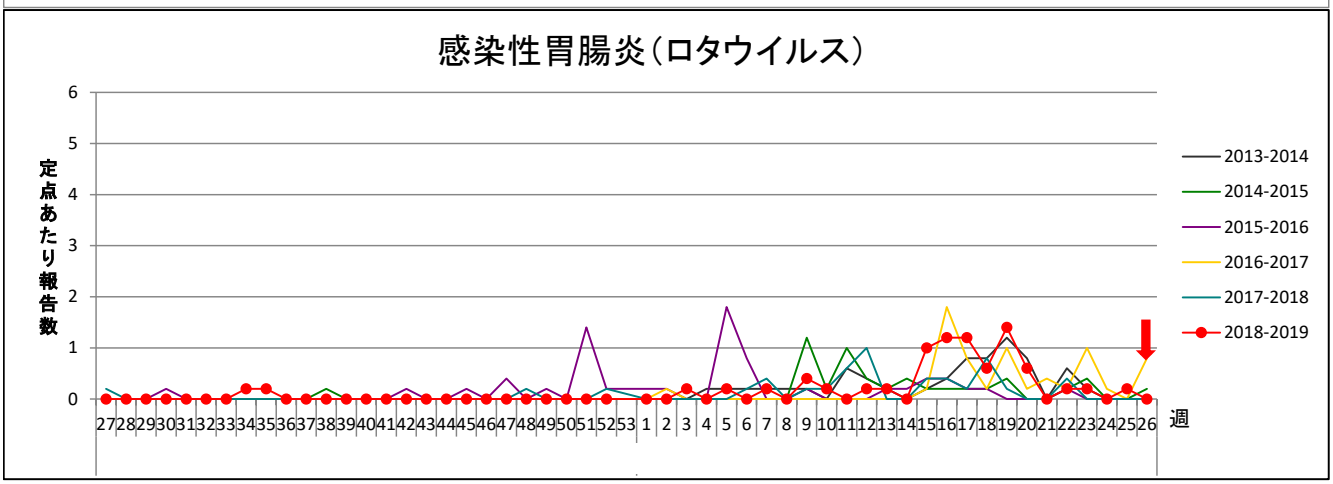

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019